

平成30・31年度「特別支援学校教科指導充実事業」
「知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校における
各教科の指導の充実」

—新学習指導要領を踏まえた

児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の向上を目指す実践研究—



《公開研究授業》

*11月21日(水)

県内各地より多くの参加者のもと授業研究会を実施しました。

指導・助言：古山 勝先生(千葉県立香取特別支援学校教諭)

【算数】 (小学部 通常学級)

単元名「かけ算の筆算(2~3桁×1桁)をしよう」



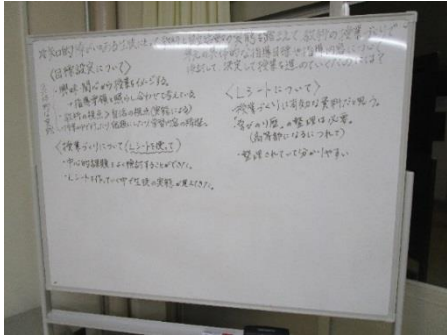
【国語】 (中学部 通常学級)

単元名「説明しよう」～順番に注意～



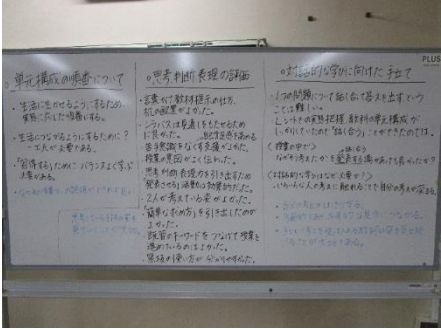
*事後検討会（協議）

- ①授業者から『単元の構成を整理するLシート』を活用して授業がどうか変わったか、困ったことや課題は何か、について説明しました。
- ②授業者の課題を中心に参加者とともに協議を行いました。



【国語】

- ・目標設定について
- ・『Lシート』を活用した授業づくりについて



【算数】

- ・思考力・判断力・表現力の評価について
- ・対話的な学びに向けた手立てについて



*授業づくりに活用した実態表

【実態表】 <改訂版>

児童生徒名 _____

① (科) における学習状況

②自立活動6区分で捉える (科) における障がいの状態や特性

<p>_____部 段階を学んでいる。</p>	<table border="1"> <tr><td>健康の保持</td><td></td></tr> <tr><td>心理的な安定</td><td></td></tr> <tr><td>人間関係の形成</td><td></td></tr> <tr><td>環境の把握</td><td></td></tr> <tr><td>身体の動き</td><td></td></tr> <tr><td>コミュニケーション</td><td></td></tr> <tr><td>＜中心的課題＞</td><td></td></tr> </table>	健康の保持		心理的な安定		人間関係の形成		環境の把握		身体の動き		コミュニケーション		＜中心的課題＞	
健康の保持															
心理的な安定															
人間関係の形成															
環境の把握															
身体の動き															
コミュニケーション															
＜中心的課題＞															



【指導場面（教科名及び単元又は題材名）



*授業づくりに活用した『Lシート』

【単元の構成を整理するLシート】 <改訂版>

作成者 _____

1 指導場面（教科名及び単元又は題材名）

2 学習指導要領に基づく根拠及び育成を目指す資質・能力を踏まえた単元の具体的な指導目標・内容と指導の手立て・工夫

<p>1 学びの履歴</p> <p>2 指導する各教科の段階における目標及び内容</p> <p><目標>（ 部 段階）</p> <p>【ア知識・技能】</p> <p>【イ思考力・判断力・表現力】</p> <p>【ウ学びに向かう力、人間性等】</p>	<p>7 手立て・工夫</p>
<p>5 育成を目指す資質・能力を踏まえた単元の具体的な指導目標</p> <p>【ア知識・技能】</p> <p>【イ思考力・判断力・表現力】</p> <p>【ウ学びに向かう力、人間性等】</p>	<p>3 中心的課題</p>
<p>6 単元の具体的な指導内容</p>	<p>4 各教科等において育まれる資質・能力を支えるために必要な自立活動の要案（項目）</p>

《参観者から》

- ・よく実態把握されて計画された授業だったと思います。教科指導の面白さを改めて感じました。
- ・今回の授業に至るまで、多くの準備を要したのではないかと思います。どちらの授業においてもポイントをしぼり、児童生徒のリアルタイムな状態を受け止めながら授業展開がなされていました。
- ・グループでの研究、検討がされた授業だと思いました。
- ・実態把握が何事も大切になってくると感じた。もう一度子どもの実態把握をしたい。

【授業者の感想】

『Lシート』を作成していく過程を通して教科と自立活動の実態を整理しながら考えることができた。

<国語 授業者>

自立活動の項目を意識することで子どもの見方が変わり、自分の言葉掛けを意識するようになった。

<算数 授業者>

(ワーキンググループの教員の感想より)

* 児童が、先生の真剣な思いをくんでいるかのように本気で取り組み、授業後には、一緒に達成感を味わっている姿は、**感動的**でもあった。

* 「できた」「わかった」が、参観している私たちにも伝わる授業でした。授業研究を重ねるたびに子どもたちの『学び』が見えてきました。

*講演会および指導助言

「知的障がい特別支援学校における児童生徒の実態把握と
各教科の授業づくりについて」
指導・助言：古山 勝先生（千葉県立香取特別支援学校教諭）

午前中の授業の様子も交えながら、
①子どもが何を理解しているか、何ができるのか。といった、実態把握の大切さ。
②教師が授業をデザインする力、そして授業の振り返りの大切さ。
③各教科の単元や題材を通して、「何を問うか」の学習評価の大切さ。
等、具体的にご講演いただきました。
最後に今回のチャレンジを次年度も続けてほしいとエールを頂きました。



今年度の成果と課題



《成果》

『適切な実態把握を基にした授業づくり』
*各教科における学習状況を踏まえ、自立活動の視点で捉えた障がいの特性を授業づくりに取り入れる。
→何を重点的に学ばせるか、どのように学ばせるか整理することができた。
『目標や育てたい力が明確になった授業実践』
*学習指導要領の各教科の目標・内容から焦点化し、手立てを工夫する。
→チーム力が高まり、学校全体の指導力の向上につながった。

《課題》

『指導目標・指導内容の精選』
→具体的な指導目標等を導き出すための協議が必要。
『単元や年間を通しての学びの改善』
→児童生徒の学習の成果を個別の指導計画等につなげていくこと。
『研修の共有』
→今年度の研修を学校全体で共有し、次年度の校内研究、教育課程の見直しに生かす。



(次年度に向けて)

次年度も児童生徒も教師も共に学び合い、感動できるような授業になるよう、学校全体のチーム力が高まる研修を目指していきます。